

第2回高知県鉄道ネットワークあり方懇談会 議事録要旨

〈日時〉令和元年10月9日（水）午後1時30分から午後2時45分まで

〈場所〉高知会館3階「平安」

〈主な内容〉

1 開会

（副知事）

今年の3月22日に「四国における鉄道ネットワークのあり方に関する懇談会Ⅱ」が開催され、JR四国から、各路線の線別営業係数が示された。結果としては、本四備讃線以外の路線が全て赤字であることが公表された。仮に赤字を前提に、一部の路線が廃止されると、四国の、また高知県の鉄道ネットワークのあり方というものが大きく崩れてしまい、ネットワーク効果が期待できなくなる。

このため、県としては、まずは四国各県状況が違うので、県内で、まずは交通事業者なども含め、鉄道利用の増加による、新たな収益を上げるための活性化策を協議し、実行に移していくことが必要だと考え、JR四国をはじめとする交通事業者、市町村、関係機関の方々にご参画をいただきこの懇談会を4月に設置した。

その後、実務者や地域の方々にも参画いただき、予土線と土讃線のワーキンググループ会議を開催し、鉄道利用の活性化策について、多くのご意見やご提案をいただくことができた。

本日は、事務局から、それぞれのワーキンググループでの検討状況を報告させていただいた上で、鉄道利用の活性化策の実行に向けた、有意義な会議にしたいと考えている。どうか忌憚のないご意見をお願いします。

2 規約の改正

事務局から「資料1」の説明。

全員の賛成により規約案は可決。

3 路線別ワーキンググループの検討状況と今後の進め方

（1）予土線ワーキンググループ

事務局から「資料2-2」「資料3-1」「資料3-2」の説明。

【意見交換】

（四万十町）

- ・今年3月に各路線の線別営業係数が示され、相当危機意識があった。
- ・先ほど、「フレックスタイム制度」の説明があったが、当町では今年6月から通勤

に鉄道が利用できるように、勤務時間を変更することができる特例を設けた。まだ利用人数は少ないが、通勤に活用できる環境は整った。

- ・本庁での会議出席の際に、大正・十和地区から鉄道が利用できるよう、各振興局に回数券を設置している。
- ・本庁で行っていた月1度の管理職行政連絡会を、今年度から大正・十和地区でも開催し、本庁職員が鉄道を利用していくという取り組みも行っている。
- ・また「危機意識の見える化」の説明があったが、当町広報誌11月号から1月号までの3回、予土線の歴史や現状、今後のこと等の特集記事を掲載予定。
- ・行政ができる限りの存続に向けた取り組みは続けていきたいと思っている。採算性は非常に大事であり、JR四国におかれては、これまでも企画列車の運行等で存続に向けたご尽力はいただいているが、今後とも行政と一緒に予土線の維持に取り組んでいただければ。

(四万十市)

- ・愛媛県と高知県で構成する予土線利用促進協議会では、今年11月3日、4日に予土線45周年記念イベントを開催することとしている。
- ・江川崎については、道の駅「よって西土佐」や沿線宿泊施設「ホテル四万十」がある。道の駅は年間20万人のレジ通過者がいる。ホテル宿泊者は7,400人近くおり、約1割は予土線利用者。
- ・現在、協議会では、JR四国販売のツアー商品のうち、2次交通としてバスを利用していただけの場合は、バス借り上げ費の半額助成を行っている。
- ・今後とも、2つの施設との連携をいただければと思っている。
- ・現在、宇和島方面へ8便、窪川方面へ6便運行していただいている。観光客の皆様や地元住民の通学や医療施設への通院に寄与している。今後、ダイヤ見直しが必要となった場合、是非沿線自治体には丁寧な説明をお願いしたいと考えている。

(JR四国)

- ・我々の発想にはない、幅広い利用促進策が出てきてありがたいと思っている。
- ・中には、コストがかかったり、制度面等、色んな課題があるが、まずは、私どもや地域でできることから始めたい。
- ・便の変更については、3月の懇談会でも申し上げたが、社員の年齢構成がいびつになっており、国鉄末期に採用された世代の大量退職を迎えて、社員の確保が大きな課題となっている。その中で、運転士の確保に苦労しているのが実態である。
- ・地域と鉄道のあり方について考えている中で矛盾ということもあるかもしれないが、会社の経営、持続的な運転を考える中で、運転士不足をどのような形でまかなっていくか、コストの問題も含め、もっとも効果的・効率的な運行を考えていきたいので、

ご理解いただきたい。

- ・ダイヤ改正については、色んな形で事前にご相談をしてみたい。

(観光コンベンション協会)

- ・観光面では、高知県の課題は2次交通と旅行会社から言われている。
- ・現状でも便利と言えるような本数が無い中、予土線がこれ以上減ってしまうと旅行会社には言いづらい。
- ・一時期、予土線三兄弟が非常に話題になっていたが、現在は商品に登場することがほとんど無くなっている。もう一度、予土線三兄弟についての情報発信、利用促進が必要では。
- ・ただでさえ不便なダイヤの中で、どのように活用したら良いか旅行者に伝えるモデルコースの提案が必要ではないか。
- ・四万十市中村から「四万十川バス」が江川崎まで運行している。これを活用し、江川崎から予土線に乗って次の観光地に移動できるダイヤ設定になっているはず。そういった既存のものを上手く活用しながら、ベースとなる沿線のお客様に加えて、観光客も上乗せできるようなことを進めていただきたい。

(土佐くろしお鉄道)

- ・ローカルの公共交通は、多少の利用促進を行ったところで採算がとれない。
- ・交通事業者は、今ある交通資源を活用し、いかに今以上に満足してもらえるか、に焦点を当てていかなければいけない。
- ・不足しているのは、色んな交通資源が活かされていないこと。
- ・2次交通の部分を強化していくことが大切。
- ・1種免許を取得している40~50代が輸送事業に関わっていく仕組みができないか。

(四国運輸局)

- ・大きな環境変化がこれまでも、これからもあると思うが、環境変化に向き合って持続可能なものをつくっていくことが大事。
- ・四国運輸局でこういった支援ができるか、ということであるが、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づく地域公共交通網形成計画の策定支援が大きな責務。
- ・高知県におかれても、高知県や各市町村で公共交通の利便性向上を図り、持続可能な事業環境に向け取り組みを進めている。
- ・また、最近ではインバウンド対応、MaaSなどを突破口に何かできないか意識している。
- ・全国の他地域の紹介といった形でもお力添えしたい。

(2) 土讃線ワーキンググループ

事務局から「資料2-2」「資料4」の説明。

(大豊町)

- ・町内にJR四国の駅が7箇所あるが、住民に「駅のトイレが閉鎖される」との情報聞いた。JR四国に問い合わせたところ、7箇所のうち、町が建築して地区の住民が管理している駅と、町が建築して指定管理者制度を利用して委託している大杉駅を除く、4つの駅（豊永・大田口・土佐穴内・角茂谷）のトイレが廃止されると聞いた。
- ・ワーキンググループの中で利用促進案を協議する際に、事前に職員にアンケートを取ったが、その中でもトイレを改装する等の意見があった。
- ・また、9月議会での一般質問でも取り上げられ、住民も非常に心配、危惧をしている。
- ・老朽化や管理の問題はあると思うが、駅は住民にとって大きな存在であり、大きな影響があることについては、自治体と事前に協議していただき、お互い解決ができる方法が無いか協議をして、利用促進につながる方法を検討していきたいと思っている。
- ・指定管理者制度を利用して大杉駅については、今年度の委託料を2倍に引き上げた。指定管理者から、「数年前から月のうち15日ほどをボランティアで運営していたが、厳しくなってきた」との申し出があったため。
- ・なぜ早く言ってくれなかったのか指定管理者に何うと、「駅で切符や商品を売ることや観光案内を行ったり、通学の生徒の見守りや朝晩の声かけが好きだから」ということであった。そういったことから黙って運営してくれていたものと思われる。
- ・地域にとっては、駅は大きな存在である。鉄道や駅の業務が好きな人材も地域にはいるので、そういった人材も活用したり、自治体と一緒に色んな協議をしながら、今後、利用促進等の協議をしながら進めていって良い方向に行けたら良いと感じている。

(安芸市)

- ・東部地域においては、昨年3月に「高知県東部広域地域公共交通協議会」を設置し、鉄道や路線バス事業者、地域住民や利用者の代表、県公安委員会、関係市町村、道路管理者等により構成している。
- ・南国市から東洋町までの11市町村を対象にし、人口減少・高齢化社会が進む中、地域の公共交通を安心して利用できる、また、将来にわたって持続可能なものとするために、昨年4月から今年3月まで約1年かけて「高知県東部広域地域公共交通網形成計画」をまとめ上げた。

- ・当計画は、地域の公共交通が抱える様々な課題に対して、地域内外それぞれの移動ニーズに合わせた公共交通ネットワークの再構築、また、異なる交通モード間のスムーズな乗り換え、地域の観光を生かすための利用環境の改善、利用促進策の実施などを計画目標に掲げ、具体的には、既存バス路線網の改善やあき総合病院前駅の設置、交通結節点での乗り継ぎの利便性の向上、待合施設の環境整備など、いろいろな施策を取り組んで行くこととしている。
- ・四国内においては、公共交通の幹線はJR四国の鉄道路線である。JR四国が存続して、初めて枝葉の地域の公共交通が存続できる。そういったことから、JR四国には、現在の四国の鉄道ネットワークを今後においても維持していくスタンスで、今まで以上に鉄道の利用促進に主体的・積極的に取り組んでいただきたい。
- ・地域の自治体、住民は、安全で安心して利用できる地域の公共交通がいつまでも持続できるよう、様々な取り組みをしながら頑張っている。ワーキンググループでも様々な取り組み施策が出されているようであるが、JR四国にも頑張ってもらいたい。

(南国市)

- ・後免駅の状態について、通学に利用されているが、車利用が中心となっている。
- ・後免駅にはパークアンドライド駐車場が22台整備されている。一定の利用がなされたら、駐車料金は無料となる。ただ、土日には満車であることも聞いているので、ニーズとしては、パークアンドライド駐車場を一定構える必要があるのではないかと。
- ・ワーキンググループの項目にも出ているが、交通事業者間の乗り継ぎ案内の連携について、とさでん交通に運行いただいていた路線バスを今年10月から市営にした。これにより、交通モードが色んな形で変化をして分散もしているため、乗り継ぎやダイヤの連携、免許返納者への施策の連携について、JR四国も含めてお願いできれば。
- ・後免駅はバスも入っていないので、駅前にロータリー設置などを考えている。JR四国の利用もあわせて考えていきたい。

(高知市)

- ・県民市民にとって、観光振興面も含め、通勤通学等の暮らしの中でも、鉄道をはじめとする公共交通は必要なものであると認識している。
- ・当懇談会の目的の趣旨からも、鉄道を中心にした、持続可能な公共交通のネットワークを構築していく必要がある。
- ・土讃線ワーキンググループの報告にもあったとおり、例えば「MaaS」「ICカードの導入」「パターンダイヤ」が、鉄道利用増につながるような提案も出されており、課題はあるが、民間事業者同士が連携して、実現に向けて検討していただきたい。
- ・特に「MaaS」については、高齢社会の中で、交通弱者の方や皆が安心して利用できるという最終的な目的がある。情報の統合や要約、決済・サービスの統合の検討をしながら、是非、JR四国を中心に、事業者間で連携して具体的な取り組み等の提案を示していただければ、当然行政としても必要な支援策を一生懸命検討していきたいと

考えている。

(J R 四国)

- ・ 懇談会について、J R 四国だけでは未来永劫、今の路線並びに列車本数を維持できない、ということから、利便性向上、利用促進策についてどう連携していくか、どういう形で公共交通ネットワークを持続していくか、その中で鉄道をどう活かしていくか、といったことで立ち上がった懇談会である。
- ・ 当然、J R 四国として更なる努力をしていくつもりであるが、あわせて、人口減少の中、どのような形で地域と連携していくか、今後ともご協力いただければ有難い。
- ・ 駅のトイレの問題は、費用対効果の面、また利用実態を見て、できる限り迷惑がかからない形にはしているが、コスト削減ということで廃止している。地域との協議において、トイレが必要ならば今後とも協議を行っていききたい。
- ・ MaaS 等の提案もいただいた。都市部は、スマートフォンを使うことも考えられるが、地方部では列車本数を増やすことは難しい。したがって、路線バス等と連携して、公共交通全体の利便性を上げてご利用をいただくような施策にしたいと思っている。
- ・ MaaS について、ローカル線は、スマートフォンを使った仕組みは厳しい。まずは紙ベースでできないか。例えば、ローカル線と並行して走る路線バスとの共通乗車券をつくる、あるいは利便性の高いフリー切符をつくる、といったことが検討できないかと思っている。

(副知事)

- ・ 当懇談会の目的として、J R 四国からご発言のあった「交通事業者を含めた全体的な交通ネットワーク」を念頭において、皆様方のご意見をお伺いしている。
- ・ そうした中、皆様方のご意見としては、やはり J R 四国の存在が非常に大きいとのことで、こうしたご意見が出ているということをご理解いただきたい。最初から、J R ありき、ということでは無く、皆様方に聞いたご意見としては、J R 四国のこれまでの実績や信頼性、そういうものが大きいということで、ご意見を出させていただいている。
- ・ トイレに費用対効果というのは、あまりそぐわないのでは。

(観光コンベンション協会)

- ・ 日頃の鉄道の利用者に観光客を上乗せすることで、少しでも鉄道の利用者を増やしていくことを考えた時に、是非お願いしたいのは、2次交通という部分で鉄道をいかに利用しやすくするか。
- ・ 鉄道駅の周りに観光地があることは少なく、駅からバス等で移動することになるが、鉄道・バス間の乗り継ぎをいかに旅行者に分かりやすくできるのか。事業者か地元か

分からないが、分かりやすい情報提供がほしい。

- ・贅沢を言えば、バスも含めた分かりやすいパターンダイヤ化ができれば。
- ・沿線の景色を紹介してあげることや、観光列車をローカル列車につなげることも考えられれば良い。

(土佐くろしお鉄道)

- ・鉄道事業者として、今の鉄道ネットワークはどうかといった疑問を感じている。
- ・一つは、生活路線を維持していくか。この部分に関しては、地域の需要に対して一定満足していただいているのではないかという感触を持っている。
- ・一方で、観光路線の役割としては疑問を感じている。
- ・鉄道に乗って幡多や東部に来る人は限られているし、インバウンド観光客は年間2万人程度で頭打ちとなっている。一方、空港では、年々利用者数が増えている。高知に入ってきた方が、県東部や西部に直接的に行ける輸送手段が不便。鉄道を使って空港から幡多まで行くような旅行行程は組まない。
- ・事業者の収益改善もあるが、利用者が最終目的地までいかに短時間で安く行けるかといったことを真剣に考えていく時期に来ている。
- ・報道で、空港を拡張していく構想もあるように聞いているが、チャーター機が年間何回も来るようになった際に、お客様をどうやって運ぶか、県の隅々まで運ぶ仕組みが今の鉄道だけで良いのか。
- ・例えば、旅館の無料送迎バスが直接目的地へ運ぶ仕組みを、将来的に鉄道と組み合わせる必要があるのでは。

(とさでん交通（電車部門）)

- ・事業者間のダイヤの連携について、弊社は、ダイヤを維持するのが厳しいほどの乗務員不足。今のダイヤを維持するのが精一杯であり、本当にできるのか疑問。
- ・お客様がストレス無く待てる施設が必要になってくるのでは。施設の充実も大事なことです。
- ・電車で、平成19、20年度に、第2日曜日のみ全線100円としたが、その日だけにお客様が集中し、他の週に閑散としてしまった。採算も取れなかったもので、2年間で打ち切った経緯がある。イベント的な集客としてワンコイン列車は行う価値があるかもしれない。

(とさでん交通（バス部門）)

- ・ワーキンググループで出された利用促進策や利便性向上策について、案を絞って検討していくということであるが、コストがかかったり、事業者間でまたがって調整が必要な施策は時間がかかるが、それ以外にすぐできる案件もある。JR四国もおっしゃ

っていたが、できる所からコツコツと取り組んで行かなければならないと考える。我々も汗をかいて取り組んで行く。

- ・嶺北地域網形成計画を策定し、取り組みを進めているが、鉄道とバスの役割を将来的に検討していく上で、モデルケースとなるのでは。嶺北地域内をバスで、地域外を鉄道で、といった移動手段の検討をしている。将来の足がかりになれば。

(四国運輸局)

- ・先ほど、国としての基本的な姿勢をお話しした。皆様のご意見をお伺いして、国も含め、お金と人手はどこも不足し、困っている。皆様で協力して、知恵を集めていくことが大切であると感じた。
- ・予土線、土讃線とも知恵を集めていただいたので、実行に移せるものはすぐ取り組んでいただき、活性化につなげていただきたい。
- ・その際、住民に最も接している事業者、自治体の方々が集めた知恵をユーザー目線で拡大していただきたい。
- ・国の制度や枠組みを一気に変えていくのは困難であるが、四国運輸局は本省・中央に伝えることも役割なので、地域の実態を踏まえた新しい提案があれば、いただきたい。

4 その他

(安芸市)

- ・8～9月にかけて、土佐山田駅に車椅子やベビーカー利用の方も利用しやすいようにエレベーター設置の、バリアフリー化を図ってもらいたいと新聞に掲載されていた。
- ・JR四国の回答は、土佐山田駅の1日平均利用者は1,900人で、3,000人以上の利用が無いとエレベーター設置は難しい、という回答であった。
- ・人口減少、高齢化が益々進む中で、言い換えれば1日に1,900人の利用者がいる。
- ・土佐山田駅に限ったことでは無いが、新聞に掲載されているご意見のように、利用者の数だけでは無く、利用状況の実態や利便性の向上、利用促進の観点からバリアフリー化が是非必要だと思う。

(JR四国)

- ・土佐山田駅のバリアフリー化の経緯については、我々も承知しており、将来的に整備していくものと考えている。特急列車も停車するので、必要と思っている。
- ・一方で、実現には多大なコストが掛かる。また、利用者数がもう少し多い、例えば香川県の多度津駅や観音寺駅でもバリアフリー化されていない。順番といたら失礼かもしれないが、まずは、ご利用の多い箇所から整備していきたい。

(安芸市)

- ・時間がかかっても是非整備いただければ。

5 閉会

(副知事)

たいへん有意義な会議にすることができた。今後、皆様からいただいたご意見を様々な形で関係者の皆様、J R 四国様、民間会社の皆様方としっかり連携し、活性化策の提案をしていきたいので、今後ともご協力をお願いしたい。